



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月10日

上場会社名 オカダアイオン株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6294 URL http://www.aiyon.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 祐司  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 前西 信男 TEL 06-6576-1281  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	14,696	17.8	1,350	36.7	1,361	33.6	852	40.6
2021年3月期第3四半期	12,470	△3.2	988	1.2	1,019	4.1	606	4.6

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,022百万円 (78.1%) 2021年3月期第3四半期 573百万円 (△3.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	106.50	105.94
2021年3月期第3四半期	75.92	75.41

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	23,680	12,190	51.4	1,517.83
2021年3月期	22,272	11,392	51.0	1,419.80

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 12,163百万円 2021年3月期 11,361百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	29.00	29.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	32.00	32.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：有

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	13.7	1,852	34.6	1,856	29.5	1,200	30.6	150.02

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	8,378,700株	2021年3月期	8,378,700株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	364,915株	2021年3月期	376,415株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	8,008,251株	2021年3月期3Q	7,990,673株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済及び世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続したものの経済活動との両立が求められる中、ワクチン接種の進展や行動制限の緩和等により持ち直し、緩やかな回復基調となりました。

このような環境のもと、当社グループは今年度からスタートした長期ビジョン「VISION30」及び中期経営計画「ローリングプラン FY2021～FY2023」の主要3戦略である①人材戦略②マーケット戦略③経営基盤強化の各方針に基づき、経営計画を実行し企業価値向上に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高14,696百万円（前年同期比17.8%増）、営業利益1,350百万円（前年同期比36.7%増）、経常利益1,361百万円（前年同期比33.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益852百万円（前年同期比40.6%増）と第3四半期連結累計期間の最高売上・最高利益を更新いたしました。

当第3四半期連結累計期間のセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間よりセグメント区分を変更しており、セグメント別の業績の比較・分析は、変更後のセグメント区分に組み替えて行っております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」をご参照ください。

国内セグメントは、6月に開催した「OKADA大展示会」や10月に出席した「森林・林業・環境機械展示実演会」での販促効果が寄与したこともあり、売上高11,924百万円（前年同期比14.1%増）となりました。機種別には、主力の圧砕機は再開発やビル・工場等の建替需要が回復し売上高4,879百万円（前年同期比24.3%増）、つかみ機は金属スクラップ処理や木造解体、災害復興等の需要が引き続き順調で売上高928百万円（前年同期比18.7%増）、油圧ブレーカは売上高668百万円（前年同期比16.2%増）と解体環境アタッチメントは全般的に順調に伸ばすことが出来ました。また、グループ連携による販売強化を進めている林業機械は売上高575百万円（前年同期比20.2%増）、ケーブルクレーン事業は再生可能エネルギーとして見直されている水力発電所の改修工事が引き続き底堅く売上高970百万円（前年同期比17.7%増）となりました。また、アフタービジネスについては、原材料売上が1,248百万円（前年同期比5.9%増）、修理売上高は628百万円（前年同期比8.4%増）となりました。売上増加に伴う販売費及び一般管理費の増加はあったものの、セグメント利益は1,062百万円（前年同期比30.1%増）と増益となりました。

海外セグメントは、売上高2,771百万円（前年同期比37.2%増）となりました。主力の北米では順調に経済活動が回復し売上高1,624百万円（前年同期比23.7%増）、欧州は販売代理店網の充実が寄与し売上高540百万円（前年同期比58.6%増）、アジア地域は現地ニーズに合わせた商材投入が奏功し売上高403百万円（前年同期比22.0%増）と主要3地域が順調に推移した他、中東・アフリカ地域での市場開拓も寄与しました。その結果、セグメント利益は312百万円（前年同期比54.1%増）と大幅増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、23,680百万円（前連結会計年度末22,272百万円）となり1,407百万円増加しました。現金及び預金が957百万円減少しましたが、原材料及び貯蔵品が839百万円、2拠点の営業所新築建設による建設仮勘定が695百万円、受取手形及び売掛金が228百万円、土地が169百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

#### (負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、11,489百万円（前連結会計年度末10,880百万円）となり608百万円増加しました。短期借入金が1,217百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が1,023百万円、長期借入金が584百万円、1年内返済予定の長期借入金が426百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

#### (純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、12,190百万円（前連結会計年度末11,392百万円）となり798百万円増加しました。剰余金処分として配当の支払232百万円がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益852百万円を計上したことが主な要因です。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年11月12日に公表いたしました2022年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき修正を行っております。詳細につきましては、本日公表いたしました「2022年3月期連結業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,301,514	3,343,525
受取手形及び売掛金	4,316,608	4,545,417
商品及び製品	3,381,212	3,301,304
仕掛品	388,499	445,563
原材料及び貯蔵品	2,340,293	3,179,735
その他	329,194	393,455
貸倒引当金	△1,356	△1,281
流動資産合計	15,055,967	15,207,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,601,440	2,754,978
機械装置及び運搬具(純額)	555,551	568,428
土地	2,332,992	2,502,336
建設仮勘定	194,469	889,719
その他(純額)	113,588	253,054
有形固定資産合計	5,798,042	6,968,518
無形固定資産		
のれん	62,840	31,420
その他	374,333	437,133
無形固定資産合計	437,174	468,553
投資その他の資産		
投資有価証券	333,087	348,643
長期貸付金	230,000	230,000
繰延税金資産	326,830	352,883
その他	94,665	107,028
貸倒引当金	△2,815	△2,884
投資その他の資産合計	981,768	1,035,670
固定資産合計	7,216,984	8,472,742
資産合計	22,272,952	23,680,461

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,744,168	3,768,141
短期借入金	3,318,652	2,101,267
1年内返済予定の長期借入金	555,136	981,240
未払法人税等	247,695	288,745
賞与引当金	225,781	177,213
その他	1,047,295	675,143
流動負債合計	8,138,729	7,991,751
固定負債		
長期借入金	2,176,488	2,760,935
退職給付に係る負債	478,785	528,975
その他	86,536	207,845
固定負債合計	2,741,809	3,497,756
負債合計	10,880,539	11,489,507
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,221,123	2,221,123
資本剰余金	2,271,774	2,275,834
利益剰余金	7,127,841	7,748,674
自己株式	△251,174	△243,504
株主資本合計	11,369,564	12,002,128
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	74,016	67,828
繰延ヘッジ損益	3,492	663
為替換算調整勘定	△85,427	92,933
その他の包括利益累計額合計	△7,918	161,426
新株予約権	30,766	27,399
純資産合計	11,392,412	12,190,954
負債純資産合計	22,272,952	23,680,461

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	12,470,934	14,696,010
売上原価	8,920,205	10,400,693
売上総利益	3,550,729	4,295,317
販売費及び一般管理費	2,562,695	2,944,320
営業利益	988,033	1,350,996
営業外収益		
受取利息	3,922	3,175
受取配当金	8,676	8,205
固定資産売却益	34,303	12,739
為替差益	—	9,006
その他	22,046	21,039
営業外収益合計	68,948	54,166
営業外費用		
支払利息	26,042	31,280
債権売却損	2,077	3,110
為替差損	8,940	—
その他	647	9,150
営業外費用合計	37,708	43,541
経常利益	1,019,273	1,361,621
特別利益		
受取保険金	8,593	—
新株予約権戻入益	12,928	—
特別利益合計	21,521	—
特別損失		
固定資産処分損	15,453	6,111
災害による損失	6,960	—
特別損失合計	22,413	6,111
税金等調整前四半期純利益	1,018,381	1,355,510
法人税等	411,725	502,611
四半期純利益	606,655	852,899
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	606,655	852,899

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	606,655	852,899
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30,311	△6,188
繰延ヘッジ損益	784	△2,828
為替換算調整勘定	△63,899	178,361
その他の包括利益合計	△32,804	169,344
四半期包括利益	573,850	1,022,243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	573,850	1,022,243
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。

2. 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症に関するその他の事項)

当社の連結子会社であるOkada America, Inc. が米国の新型コロナウイルス感染症に係る雇用保護政策であるPaycheck Protection Program(給与保護プログラム)ローンを申請し借入れしていましたが、借入金の債務免除条件となっていた雇用保護を目的とする従業員給与等の支払に使用したことにより、返済が免除され、助成金の支給額43,844千円を販売費及び一般管理費から控除しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,450,774	2,020,160	12,470,934	—	12,470,934
セグメント間の内部売上高又は 振替高	294,791	3,729	298,521	△298,521	—
計	10,745,566	2,023,889	12,769,456	△298,521	12,470,934
セグメント利益	816,850	203,054	1,019,905	△31,871	988,033

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△31,871千円の内訳は、のれんの償却額△31,420千円及びセグメント間取引消去△451千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,924,230	2,771,780	14,696,010	—	14,696,010
セグメント間の内部売上高又は 振替高	470,001	8,557	478,559	△478,559	—
計	12,394,232	2,780,337	15,174,570	△478,559	14,696,010
セグメント利益	1,062,900	312,850	1,375,751	△24,754	1,350,996

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△24,754千円の内訳は、のれんの償却額△31,420千円及びセグメント間取引消去6,665千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、今後の事業展開を踏まえ合理的な区分の検討を行った結果、オカダアイヨン株式会社と株式会社南星機械の営業所を一体管理していく体制が整ったこともあり、報告セグメントを従来の「国内」、「海外」及び「南星」の3区分から、「国内」及び「海外」の2区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分表示により作成したものを記載しております。